

(熊本県立鹿本高等) 学校 令和 5 年度 (2 0 2 3 年度) 学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>1 綱領</p> <p> 自主自律【進取の気象を涵養する】</p> <p> 質実剛健【好学の気風を養成する】</p> <p> 師弟同行【敬愛の美風を育成する】</p> <p>2 教育方針</p> <p> 「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「学校安全・安心推進課取組の方向」、「県体育保健課取組の方向」及び本校の綱領等に則り、生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、徳・知・体の調和のとれた生徒を育成する。</p> <p>3 教育スローガン</p> <p> 探究する生徒の育成</p> <p> ～ 社会と向き合い挑戦する ～</p> <p>4 教育理念</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の確立、規範意識や豊かな人間性の育成【徳育】</p> <p>(2) 基礎学力の定着、学習意欲の向上、国際性を高め探究（挑戦）する力の育成【知育】</p> <p>(3) 特別活動や部活動の活性化をとおした健やかな心身の育成【体育】</p> <p>(4) 進路希望の実現、望ましい勤労観・職業観の育成【進路希望の実現、自己実現】</p> <p>(5) 保護者や地域社会、大学等の関係機関との連携・協働【開かれた学校】</p> <p>(6) 業務改善と働き方改革の実現、ワークライフバランスの達成【信頼される教職員の育成】</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>1 主体的・対話的で深い学びの視点からの新しい学びのスタイルによる学力向上・進路実現</p> <p>(1) 学びの質を高めるための、OJT等による授業方法の工夫・改善</p> <p>(2) 年間の指導と評価の計画や観点別学習状況評価、成績評価規定の見直しの実施</p> <p>(3) 生徒発表会や各種検定、各種大会等の積極的・戦略的な活用による、個々の生徒への的確な支援</p> <p>(4) 外部講師による講演会や企業見学、実習等による望ましい勤労観・職業観の育成</p> <p>2 教職員が生徒一人一人に寄り添い支援することによる自主自律の精神の育成</p> <p>(1) 相手を尊重する関係づくりに根ざした人権意識、規範意識の醸成</p> <p>(2) 教職員が情報を共有し、一丸となって取り組む個々の生徒に対する心の支援</p> <p>(3) 危機管理（交通マナーやネットトラブル、防犯、自然災害等）に対する意識の醸成と危機回避能力の育成</p> <p>(4) 特別活動や部活動の活性化による表現の場の保障と相互尊重の意識の醸成</p> <p>3 本校ならではの教育活動や関係機関との連携・協働によるイノベーターやグローバルリーダーの育成</p> <p>(1) SSH等を活用した大学等との連携・協働による指導方法の充実・深化</p> <p>(2) 海外大学との研修等、これまで培ってきた本校ならではの教育資源の有効活用</p> <p>(3) 保護者や地域社会、同窓会に本校の取組について理解を得ることによる外部環境の充実</p> <p>(4) 戦略的な広報活動や探究活動の取組推進による意欲的な生徒の確保</p> <p>4 「働き方改革」を念頭に置いた業務改善及び、外部専門家の活用、学校行事の精選、職場環境の向上</p>

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	本校の教育目標を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム ・マネジメントの実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH事業を軸足に据えた教育活動を推進し、各取組のブラッシュアップを図る。文科省からの中間評価で高評価を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携、小高連携等、新たな外部機関との連携に取り組む。課題研究の質的向上を図り、外部発表会等で成果を残す生徒を育成する。 ・新聞や各種研修等において知り得た有効な情報は、止めずに積極的に担当部署との共有を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度以上に地域連携・高大連携に取り組むことができた。 ○県教育委員会と連携し、半導体関連人材育成事業に取り組んだ。生徒先端研修に3名の生徒が参加した。 ○課題研究において、上位大会に入賞する生徒を育成できた。また、1年生1名が、九州大学未来創成科学者育成プロジェクトの受講生に選出された。 ○有用な情報は職員間で共有し、多くの職員が先進校を積極的に視察した(SSH関連10校、体育関連2校、進路関連2校)。 ○京都市教育委員会等から本校のSSH(STEAM教育の実践)に関する視察を受けた。 ○文部科学省によるSSH中間評価は、C評価であった。研究開発のねらいを達成できるよう今後も努力を継続する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の探究型クロスカリキュラム実施率100%を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修等を通じて教職員の意識高揚を図り、教職員が気軽にクロスカリキュラム等に取り組めるような雰囲気構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> ●探究型クロスカリキュラムの実施率は、2月末時点で76.3%である。3月末までには100%を達成できる見通しである。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの新たな活用に1つ以上取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報活用推進リーダー会で研修等を企画する。 ・更なる働き方改革に着手し、教職員が外部研修等に参加できる時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「すぐーる」の早期活用は、迅速に対応できた。今後、保護者への情報発信のツールとして更なる活用を進めて行く。 ○Google formsを効果的に利活用できる生徒・職員が共に増加した。
学校運営協議会(総合型)が機能している。	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の協議会で、委員からの意見の聴取 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の重点取組を提示し、協議の柱を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の課題研究発表や授業見学等を協議会の中で計画する。 ・協議会で使用する資料は、事前に委員に郵送する。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たに生徒の発表機会を設ける等の工夫を行った。資料も早期に作成・配付できたことで、委員からの多様な意見を引き出すことができ、学校活性化に繋がる大きなヒントを得ることができた。 ○女性委員の割合は30%となった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・女性委員の割合を増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多方面から委員を選出し、客観的な評価をいただく。 	
組織体としての一体感が醸成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の連携・情報共有、協力体制の整備、管理職への報告・連絡・相談の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の議題は部会等を通じて確実に全職員で共有し、課題解決に向け各部・各係の連携強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署で得た情報は個人情報に配慮しながら積極的に発信し、共通理解を図る。 ・組織的な動きの中で、各部を越えた協働作業を推奨し、支援する。 ・個々の職員のアイデアや積極的な取組を推奨し、支援する。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各部会において、運営委員会の報告を確実に行った。 ○職員の休憩室を設置することができた。 ○管理職と職員が日頃からしっかりとコミュニケーションがとれる職場環境づくりを行った。管理職に気軽に声を掛けたり相談をしたりする職員が増加した。
積極的に業務改善を図り、職員の働き方改革に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・一歩踏み込んだ業務改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務全般を見直し、スクラップアンドビルドに学校全体で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署で企画する行事については、対費用効果を検証する等、積極的に見直しを図る。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前年踏襲のままの学校行事等はほとんどなく、新たな視点が盛り込まれた充実した内容であった。 ●業務のスクラップは、あまり進まなかった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・男性の育休取得推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の育休完全取得を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修を企画する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○該当職員2名の育休の完全取得はいずれも達成することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の休暇取得率向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からの取組の徹底を図ると共に、新たな働き方改革につながる取組を提案し、職員の年休等の取得率向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月2日の定時退勤日の徹底を図る。 ・衛生委員会を通じて職員の心身の健康状態の把握に努め、年休取得10日以上を全職員が達成するよう、積極的に管理職からの声掛けを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○朝からの年休等の取得する職員が増加し、年休取得日数10日以上職員は53%であった。 ○常勤職員の令和5年の年休取得日数は12.2日で、前年より13%増加した。 ○働き方改革は喫緊の学校課題であるという認識のもと、管理職が積極的に外部研修を受講し、職員へ復講も確実に行った。「ゆるっと出勤DAY」等、他校の先行事例となる新たな取組を提案し実行することができた。 ●月平均の時間外勤務時間が45時間以上超の職員数は、令和6年1月末現在、昨年度の22人から19人に減少（80時間超は昨年度1名から0人に減少）したが、大幅な改善に繋がらなかった。
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標に沿った教育課程が編成され、教職員の共通理解により適切に運用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な教育課程の編成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒にとってより良い教育課程となるよう教育課程の編成を行うと共に見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県の教育課程研究協議会の復講を各教科で確実に行い、協議会の内容を踏まえながら教育課程検討委員会で検討するとともに、新課程の学習評価についても引き続き情報収集及び研究を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●県の教育課程研究協議会も踏まえながら、教育課程の編成や変更を行ったが、更により良いものとなるよう検討を重ねていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の適切な運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の早期把握に努め、適正な授業時間の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科シラバスを作成し、生徒に提示する。 ・他の部署と連携した行事設定をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科で作成した全教科のシラバスを、Chrome bookで生徒に提示することができた。 ○行事設定については、他部署と連携して設定することができた。今後も継続して行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査問題や観点別学習評価の精度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科間で考査問題や評価についての検討時間が十分に確保できるよう、働き方改革を推進する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○2学期末の3日間を45分授業にし、学習評価についての検討時間を確保するよう計画を変更した。 ●1・2年生の学習評価については、引き続き研究を進めていく必要がある。
適切な学習指導がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業、授業公開、授業評価アンケートを他の部署と連携し計画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業は、各教科で県内の指導教諭等を招き、年1回以上実施する。 ・授業評価アンケートを年2回実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科で研究授業を実施することができた。 ●県立高校の指導教諭計4名を招聘し、指導力向上を図ることができた。また、指導教諭の公開授業見学にも参加した。 ○Chrome bookを利用した授業評価アンケートを年間2回実施することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた適切な指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰一人取り残さない指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の特別補習授業を計画し実施する。 		B
		<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを実施し、基礎学力の養成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国数英の小テストを実施し、主体的な進路選択に必要な基礎学力を養成する(1・2年)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テストは、概ね計画通りに実施できた。 ●実質的な学力向上や学習習慣の定着につながっているかどうかは検証できていない。 ○3年生の55%が英検準2級以上レベルとなり、県教委が掲げる目標をクリアした。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳を効果的に活用し、家庭学習時間の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳の記入を通して、自己の生活や学力を客観的に捉える力を育て、主体的・計画的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○受験勉強や出前授業等でも手帳を活用する生徒の姿が見られるようになった。 ●メタ認知力の向上や、学習習慣の定着にまで活用できているかどうかは、個人差が大きい。記入を徹底させようとする担任・副担任の負担が大きい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望に応じた個別指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望先や選抜方法に対応した個別指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年生向けの小論文基礎講座、3年生向けの実践的小論文講座をいづれも実施することができた。国公立総合型及び推薦型入試で、例年よりも多い13名の合格者を出すことができた。 ●公務員志望者向けの指導については、方向性が定まっていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程関連表を作成する。ICTを活用し、実践報告を簡素化する。 ・教科の枠を越えたALTの活用を検討する。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ALTの英語以外の活用を進めることができた。 ○鹿本STEAM以外にもクロスカリキュラムの実践が進んだ。 ○機器や施設の充実とともにGoogle for Educationを活用した授業、また、その他のICTを活用した授業が進んだ。 ●業者が提供するICT教材の活用のあり方が課題である。 ●教員の授業力向上に資す外部研修会等に参加できる時間を十分に確保できるよう、更なる校務改革が必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての授業において、ICTの積極的活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的にタブレットPCを活用した授業実践を広報する。 ・ICT活用が苦手な教師や非常勤講師への支援を各教科で十分に行う。 	

キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育の組織的推進が図られている。	・キャリアパスポートの実践	・PDCAサイクルの指導の実践を行う。	・キャリアパスポートを活用し、適宜自己の振り返りを行わせ、深い自己理解に基づいた主体的なキャリアプラン構築へつなげる。 ・出前講義を充実させる。	B	○出前授業は11回開催し、参加人数は延べ350名(予定を含む)と、昨年度よりも充実させることができた。 ●キャリアパスポートを作成させる時間が取れず、指導が徹底できなかった。
			・インターンシップを実施する(体験率80%以上達成)。	・HR等を通じて、積極的に情報を流す。		●インターンシップ体験率は、学校全体で65.7%(1年生97%、2年生64%、3年生38%)であった。 ○インターンシップに加え、県の半導体人材育成事業への参加により、働くことへの意識を高めることができた。 ●対象者を限定せずに、幅広く募集をかける必要がある。
	進路情報や個人的資料が収集・活用されている。	・進路決定の参考になる資料の提供	・大学入試の情報整理と共通テストに向けての対策を研究する。	・各大学の入試説明会等を活用し情報収集を行う。	B	○大学の説明会等に積極的に参加することができた。 ●教員向け・生徒向けの進路指導部からの情報発信が不足していた。
		・外部講師を招き、進路講話を実施する。	・小論文対策や受験指導について、外部講師による講話を計画・実施する。	●外部講師による研修は実施できなかった。小論文・面接対策については、学校全体での指導體制の構築がなされていない。		
	・進路検討会の充実	・模試結果の分析と定期的な進路情報の提供を行う。	・各学年の進路検討会を定期的で開催し、模擬試験結果の分析と情報共有を行う。 ・大学入試問題研究の研修を行い、	B	○大学入試の問題について、教員向け研修を実施することができた。 ●進路検討会については、生徒の希望の多様化や入試	

				教科の枠を越えて入試情報の共有を図る。	の変化に合わせてさらに改善していく必要がある。新課程入試に向けての教員向け研修が不十分である。	
	進路相談が適切に行われている。	・個人面談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、計画的に二者面談、三者面談を推進する。 ・1年生では、家庭訪問等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の面談週間を設定し、十分な面談時間を確保する。 ・早めに日程調整に取りかかる。 	A	<p>○面談期間を設けたことで、十分な面談を実施することができた。学校アンケートの進路指導項目については、年々評価が上がっている。</p> <p>●出先指導にとどまらない、低学年からの丁寧な進路指導・学習指導を行うために、更なる工夫が必要である。</p>
生徒指導	学校全体で生徒指導に取り組む体制が整備されている。	・「高校生活の心得」(校則)を基盤とした基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・自主自律を促し、生徒が自ら考え行動する姿勢を身につけるための支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生活の心得」(校則)のHP掲載や教室掲示等を行うことで周知徹底を図り、生徒が自ら考え行動することを支援する。 	A	<p>○大半の生徒が自ら考え行動する姿勢を身につけている。手厚い指導や支援が必要な生徒も一部いる。適宜アドバイスを継続していく。</p> <p>○生徒会との意見交換を実施し、校則の見直しや変更削除を行うことができた。行事の取組についても、全校生徒のアンケートをもとに意見交換をすることができた。</p>
	規範意識の向上に向けた指導を行っている。	・全職員の共通理解の下での、全校集会や学年集会における指導の徹底	・タイミングよく全校集会や学年集会を開き、指導を徹底する。	・挨拶、授業態度、掃除等の日常生活を通し、些細な部分も見逃さず、全職員が協力して指導をする。	A	<p>○送迎の校内での対応を形作ったことで外部からの苦情が激減した。</p> <p>○学年集会等、学年担当と連携を図ることで一貫した指導体制を構築することができた。</p>

	安全への意識向上に向けた指導を行っている。	・自転車二重ロック及びヘルメット着用の推進	・自転車通学生及び単車通学生の交通安全指導を徹底し、交通事故・交通違反件数を昨年度以下にする。	・現在ヘルメットを着用している生徒を大切にすることで、学校全体で着用率向上を図る。 ・単車通学生には実技講習会を実施する。 ・通学別に集会を実施し、交通ルール遵守やマナーアップについて指導する。	B	●学校全体の自転車二重ロック100%は達成できなかった。交通委員は、二重ロックの呼びかけやチェック等は積極的に行ってくれた。 ●ヘルメットの着用率は2%程度であった。来年度以降着用率を向上させる。 ○交通事故・違反については減少傾向にあり、大きな事故や命に関わる事故等も発生していない。
	保護者や地域社会との連携が整っている。	・PTAとの連携	・学校行事や地域の行事等に積極的に参加することで、情報交換や連携を行う。	・山鹿市青少年育成健全大会や山鹿市主催のボランティア等に参加し、地域との関わりを密接にする。	A	○学校行事等で十分な協力を得ることができた。また、制服検討や体育服検討についても連携することができ、貴重な意見をいただけた。
		・近隣校との連携	・近隣校との情報交換を積極的に行う。 ・校種を越えた連携を行う。	・校則等について、他校と積極的に情報交換を行い、地域との一体感醸成につなげる。	A	○適宜情報交換を行うことができた。近隣校だけではなく、県内・県外学校の情報収集を行うことができた。
	生徒の自主的・自発的な活動がなされている。	・生徒会活動、各委員会の活性化	・生徒自身が動きやすい組織づくりを推進し、生徒会主催行事の充実を図る。	・各委員会を委員長主導の形で運営する。 ・企画運営等は生徒主導で行う。	A	○各行事に生徒の意見を取り入れた運営を進めることができた。
		・部活動の活性化	・メリハリのある活動に各部署で取り組む。	・活動開始時間と活動終了時間の厳守に努める。	B	●活動自体は概ね良好だが、部活動数の精選が急務である。部活動規定についても見直していきたい。
人権教育の推進	人権意識の向上に向けた取組をすべての教育活動を通じて行われている。	・職員研修の実施	・教職員の人権感覚の向上を図る。	・生徒理解研修を年2回実施する。	A	○生徒理解研修を4月と10月の計2回実施し、個別の生徒について全体での情報共有を行った。

			・自他を大切に尊重できる生徒を育成する。	・SCによる職員研修を実施する。 ・研修の成果を生かし、個に配慮した指導を行う。	OSCによる研修は、「生徒対応にいかすカウンセリングスキル」をテーマに実施した。
	豊かな人間関係づくりに向けた指導ができています。	・一人ひとりの生徒が尊重される環境づくり	・生徒の自主自律、自己決定能力、コミュニケーション能力を高める指導を行う。	・心のアンケート、心と体の振り返りシートを活用した実態把握と支援を行う。 ・ソーシャルスキルトレーニングをSCの助言を仰いで実施する。	A ○「振り返りシート」(1学期)・心のアンケート」(2学期)や面談による実態把握・支援を進めた。
	命を大切にす る心を育む指 導に取り組ん でいる。	・人間としての 在り方・生き方 の自覚の深まり	・生徒の自己肯定 感を育成する。	・教育相談やカウ ンセリング体制 を充実する。 ・様々なストレス 対処やSOSの出 し方に関する指 導を推進する。	A ○継続的なカウ ンセリングや、専門 的な見地からの助 言をいただいたこ とで、生徒・保護 者の安心感や課題 の改善につなが った。 ○計画通りに実施 できた。
			・人権教育LHRの 充実を図る。	・人権教育LHRを 各学年3回以上 実施する。	
いじめ の防止 等	インターネットや携帯によるいじめなどの防止に努めている。	・教師と生徒の 双方による現状 の理解	・情報モラル教 育の充実・徹底を 図る。	・外部講師による 情報モラル講演 会を実施する。	B ○教科と担任、生 徒指導部で連携し て定期的に指導の 場を設けた。 ●外部講師の講演 会は学校行事と講 師の都合が合わず 実施できなかった。 ○いじめ標語等、 初めての取組を行 うことができた。 多くの生徒が意識 を高く持ってくれ たように感じる。
			・生徒会による「 いじめ根絶運動」 を促進する。	・各クラスの代議 員を中心に、生徒 の自発的な取組 となるよう支援 する。また、保護 者との連携強化 を図る。	
	いじめを未然 に防ぐ体制・ 意識が確立さ れている。	・いじめ問題検 証委員会の活用 及びネットいじ め等、早期対応 推進事業の活用	・「いじめは必ず ある」との前提に 立ち、学年間での 情報交換を密に し、常にアンテナ を高くしていじ め等の未然防止 に取り組む。	・スクールサイ ンへの登録を奨励 する。 ・あらゆる教育機 会を通して、「相 談することは正 しい行為である」 という認識を持 たせる指導を行 う。 ・学年内・学年間 での密な情報交 換を行い、未然防 止に努める。	A ○職員間での情報 交換や連携ができ 対応も迅速に行 うことができた。 ○心のアンケート を実施し、適宜面 談等で生徒の悩み や変化に対応でき た。

地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校防災体制の整備と防災教育を推進している。	・生徒、職員の防災意識の高揚	・生徒、職員の防災意識の高揚を図るための防災教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練(避難経路確認、消防火訓練、シェイクアウト訓練)を実施する。 ・防災だよりを発行する。 ・地域の防災訓練へ参加する。 ・危機管理マニュアルの見直しを行う。 ・LHRでマイタイムラインを作成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度より年度当初(4月)の避難訓練が、計画通りに実施できた。 ○「防災だより」は計画的に発行できた。 ●地域の防災訓練への参加は、スポーツ健康科学コースのみであった。 ○「危機管理マニュアル」の見直しを実施し、改善できた。 ○「マイタイムライン」の作成については、LHRの時間を使って実施できた。
	総務部とPTA(保護者)との連携強化が図られている。	・総務部関連行事、PTA活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各部、PTA役員(保護者)と連携し、学校行事の円滑な運営に努める。 ・PTAが関わる業務について今一度見直す。残すべき行事・不必要な行事を精選する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面での会議が可能となった。連携を密に取りながら活動する。 ・PTAとの連携を大切にしながら、積極的に行事等の精選を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> OPTA役員の協力により、円滑な運営が実行できた。 ●保護者の負担を減らす取組も考える必要がある。 OPTAからの助言・協力を得ながら、生徒支援を行うことができた。
	奨学金等の支援活動が確実かつ適切に行われている。	・保護者・生徒への周知の徹底と適切な事務処理	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、生徒へ奨学金の情報を提供し、生徒の就学支援を行う。 ・ミスのない事務処理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構の奨学金に関して、説明会を実施する。 ・奨学金の募集要項をPDFファイルにし学校安心メールに添付して送信する。併せて募集要項等をHR教室にも掲示する。 ・複数の担当者でチェックする体制を構築する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じて、ほぼ計画通りに実施できた。 ○ミスのない事務処理を行うことができた。
地域の自然や文化財、伝統行事等の教育資源を活用している。地域団体(住民)との連携が行われている。	・地域の伝統行事等への理解と参加	・理数探究において、地域との連携を促進する。		<ul style="list-style-type: none"> ・市町村役場、小学校や中学校、菊池川流域の恵み体験協議会等との連携を充実させる。 	A	○山鹿小学校との交流が充実した。

	<p>・地域団体・地域住民との交流促進</p>	<p>・生徒のボランティア活動の積極的参加を推進する。</p>	<p>・ボランティアや交流事業等を生徒へ案内し、積極的参加を促す。</p>	<p>A</p>	<p>○多くの生徒が積極的に参加することができた。 ●定期考査の関係で、参加したくても参加できないボランティアがあった。</p>
		<p>・生徒の中高連携、小高連携、地域連携行事を推進する。</p>	<p>・One team プロジェクト事業を通して、地域の県立高校間の連携を更に深める。</p>		<p>○One team プロジェクトを通して、生徒は地元の伝統工芸や芸能を学ぶことができた。 ●One team プロジェクト後の高校間連携をどのように取り組んでいくかが課題である。</p>
<p>保護者や地域の方々の学校の活動内容への理解が進んでいる。</p>	<p>・学校の将来を見据えた戦略的な情報発信</p>	<p>・年間を通して、情報発信のターゲットを明確にし、戦略的な広報活動に取り組む。</p>	<p>・職員のアイデアを積極的に生かし、総務部広報班と連携し、組織的な広報活動を展開する。</p>	<p>B</p>	<p>○スポーツ健康科学コースの前期(特色)選抜の出願者数は、昨年度より増加した。 ●グローバル探究コースの前期(特色)選抜の出願者数は、昨年度より減少した。 ○普通科の後期(一般)選抜の出願者数は、昨年度に比べて増加した。 ●保護者の学校評価アンケート結果を見ると、本校の教育方針の理解や家庭への情報提供や連絡の項目の数値の伸びが他の項目に比べて低かった。</p>
		<p>・学校HPの定期的な更新を行うとともに、閲覧する側の視点に立ったHPの改善に取り組む。</p>	<p>・総務部広報班がリードし、閲覧する側の視点に立ったHPの改善を図る。 ・職員のHP更新のサポートを行う。</p>		<p>○インスタグラムの広告機能を活用した学校案内に取り組んだ。HPの閲覧数が大きく伸びる等、効果は高かった。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・マスコットキャラクター「しかモン」を効果的に活用する。 ・中学校や保護者に向けて公開授業を行う。 ・教育相談体制やカウンセリングに関する周知を徹底する。 ・3年間を見通した進路指導年間計画の改善と周知を図る。 ・SSH事業、授業、教師や生徒を紙媒体及びウェブサイトで広報する。 ・PTAと連携した広報活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア等へ登場機会を拡大する等、広告塔として積極的に活用する。 ・PTA総会時に公開授業を行う。案内は可能な限り早めに出す。 ・学校安心メールの積極的活用を図る。 ・入学時やPTA総会において、本校の教育相談体制やカウンセリングについて説明すると共に、SC通信の発行により啓発を行う。 ・進路通信、進路のしおりを発行し、進路指導に活用する。 ・保護者集会を通じて、進路情報を提供する。 ・校内の授業やSSH事業、そして様々な優れた取組を取材し広報する。 ・学校広報誌「鹿本高校News」を月1回発行する。 ・PTA広報委員会を定期的に関き、PTA新聞「めいりん」を発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの媒体で取り上げていただくことができた。 ○PTA総会時に行った公開授業には、100名以上の保護者の参観があった。また、公開授業週間にも中学校の先生や保護者等の参観があった。 ○入学時に保護者会でスクールカウンセラー制度について周知をし、場合に応じて個別にも利用を呼びかけた。 ●スクールカウンセラー通信については、効果的なあり方を含めて検討が必要である。 ○進路通信・進路のしおりに加え、進路先に特化したチラシを作成し、PRに活用することができた。進路指導関連のイベントをブログに掲載することができた。 ●更なる魅力的な取組と情報発信が求められる。 ○内部広報、外部広報の取組が充実 ●生徒募集にいかに関結び付けるかが課題である。 ○いずれも計画通りに発行することができた。
--	--	--	---	---

保健安全管理	安全点検や環境美化に関する取組に努力している。	・安全点検の実施と改善	・学期に1回、校内安全点検を実施する。	・点検率100%を達成する。	A	○各学期の安全点検を受けての改善は、9割以上達成することができた。
		・美しい学校づくり	・UD化を意識した校内の美化活動を推進する。	・掲示物等の張り方等、校内の至るところに気を配り、美化活動に取り組む。	A	○UD化を意識した校内の美化活動や掲示物等の張り方等、美化活動に取り組むことができた。
			・環境ISO宣言に基づいた取り組みを推進する。	・環境美化委員会を中心に、環境ISO宣言に基づいた取り組みを行う。 【職員】 印刷用のコピー用紙を令和4年度比2%削減する。 【生徒】 水道使用料を令和4年度比2%削減する。		●SSHの取組が本格化し、コピー用紙の使用枚数が増加傾向にある。印刷用コピー用紙における削減目標達成率は、令和5年12月現在97.3%である。水道使用量については、感染症や熱中症対策等との関連もあり、使用量が増加した月もあった。削減目標達成率は、令和5年12月現在103.8%である。
健康教育の推進		・健康課題をもとに生徒保健委員会活動の活性化を図る。	・保健委員の自主的な活動と啓発活動を推進する。	・キャンペーン活動や文化祭の取組、保健だよりを定期的発行する。	A	○今年度の活動テーマについて積極的に取り組むことができた。保健だよりの作成は賞もいただいた。ICTを利用した活動にもしっかりと取り組んでいた。
		・学校保健委員会の充実を図る。	・学校保健委員会を開催する。	・学校医、PTAと連携し3学期に開催する。	A	○計画通りに対面で実施することができた。 ●PTAとの連携方法を考える必要がある。
		・講演会等を実施する。	・保健体育科と連携し、計画的に健康教育、性教育を実施する。	・性教育講演会、薬物乱用防止教室、熱中症予防教室を実施する。応急手当研修会も実施する。	A	○講演会は新たな講師を招聘することができ、好評だった。 ●他の講演会とも連携し、該当学年や講師の順番等の検討する必要がある。

教育環境整備	施設設備の安全・維持管理のための点検整備がなされている。	・安心して教育活動に取り組める環境づくり	・安全で整理整頓された敷地・校舎の維持管理に必要な対策を行う。	<p>・根本的な施設設備の維持管理、改修等については、県の長寿命化プランや営繕工事計画に基づき、計画的に進めていく。</p> <p>・緊急対応事項や営繕工事計画に掲載されていない事項は、校内巡視や職員等からの要望を踏まえて随時把握し、学校全体で対応する。</p> <p>・生徒や教職員が安心・安全かつ快適に教育活動に専念できるよう、迅速かつ丁寧に対応するよう心がける。</p> <p>・校内の不良箇所について、情報を収集し、事務部と連携し迅速に対応する。</p>	A	○校内の不良個所の整備は、優先順位をつけ、事務部と連携しながら、迅速に対応することができた。
図書館教育	メディアリテラシー能力(情報を評価・識別する能力)を育てる。	<p>・読書習慣の定着</p> <p>・学習、探究、情報センターとしての図書館づくり</p>	<p>・書架の案内の整理、新刊案内を工夫する。</p> <p>・図書館の有効活用を推進する。</p>	<p>・掲示物や図書館だよりを工夫する。</p> <p>・理数探究やその他の授業の取組と連携し、図書館の活用頻度を高める。授業等で活用しやすい図書館にするため、レイアウト等の工夫を検討する。</p>	A	<p>○県費以外からの寄付もあり、図書が充実した。</p> <p>○生徒のニーズに合った図書の展示ができた。</p> <p>○施設の充実を図ることができた。</p> <p>●テーブルや椅子の老朽化への対応が課題である。</p>

4 学校関係者評価

今年度の学校関係者評価委員会(学校運営協議会)は、生徒の課題研究発表や活動報告を会の中に取り入れる等の新たな工夫を行い、当初の計画通りに年3回、対面開催することができた。SSH指定を受け、着実に学校全体が大きく変容している点を高く評価された。特に、今年度の重点取組である「魅力あるみらい創造科スポーツ健康科学コースづくり」と「広報活動の充実」については、毎回、進捗状況を報告し、そこで出された各委員からの指導・助言等を基に、取組の分析・検証を進め、全職員で情報を共有し、更なる取組の充実を図った。前者については、高大連携や地域連携を昨年度以上に進め、その内容も充実していたことが、生徒及び保護者を対象に行った学校評価アンケート結果の「コースへの帰属意識や入学満足度」の項目の評価に反映されており、喫緊の課題である生徒募集においても、志願者数増加に繋がっている点を評価された。後者については、メディアの効果的活用やインスタグラムの広告機能等を活用した充実した広報活動の戦略的な取組が、学校ホームページの閲覧数も飛躍的な伸びに繋がっている点を評価された。入学した生徒一人一人を大切に、可能性を開花させる教育が組織的に展開されており、また、各取組に対して、学校全体で緻密な分析・検証を行いながら、地域の進学拠点校としての使命を果たそうとする本校の姿勢が高く評価された。課題としては、保護者の学校理解を更に高めることができる情報発信手

段の工夫、18歳成人を前提とした主権者教育やシチズンシップ教育の推進等が挙げられた。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標

SSH指定3年目を迎え、多くの職員が積極的に先進校視察や成果発表会等に出向き、そこで得た学びを自身の授業力向上や探究活動の指導力向上に繋げた。職員のような変容は、生徒にも確実に伝わり、生徒の課題研究の質的向上に繋がった。今年度は、当面の目標であった上位大会への入賞も達成することができた。また、生徒の外部大会への出場やコンテストへの応募総数は、本年度は延べ594件と昨年度の2.1倍、指定1年目の令和3年度と比較すると7.4倍増となった。文部科学省による中間評価結果を踏まえ、これまでの取組の分析・検証を進め、2期目の申請を見据えながら取組を加速化し、県北地域唯一のSSH校としての使命を果たしていく。

2 本年度の重点目標

SSH事業を中核に据えた教育活動の成果として、SSH第1期生となる3年生の学校推薦等を利用した国公立大学への合格者数や理系学部への進学者数の増加が挙げられる。小まめに生徒と面談を行いながら、個々の生徒に寄り添った教育を実践していることが、学校評価アンケート結果からもうかがえ、9割以上の生徒・保護者が「本校に入学して良かった」、「子どもを本校に入学させて良かった」と評価している。

職員の新たなチャレンジを推奨し、教育の充実を図る一方で、業務のスクラップはあまり進めることができていない。職員のワーク・ライフ・バランスの実現は道半ばの状態である。生徒・保護者にもしっかりと理解を求めながら、職員の働き方改革により一層着手する。

3 自己評価総括表

学校関係者評価委員会で各委員から出された意見等を踏まえ、今年度は大項目「学校経営」の中の小項目「組織体としての一体感が醸成されている。」等、9項目において昨年度より評価を上げた。学習指導、進路指導、生徒指導に手ごたえを感じている職員も多い。逆に、生徒・保護者による学校評価アンケート結果等を踏まえ、大項目「学校経営」の中の小項目「本校の教育目標を理解している。」等、4項目において昨年度より評価を下げた。授業の更なる工夫・改善を求める生徒及び保護者の声が少ないからある。今後、更なる工夫・改善を図り、誰一人取り残さない指導の充実に学校全体で取り組んでいく。

6 次年度への課題・改善方策

学校関係者評価委員会を開催するたびに、各委員が学校や生徒の変容をよく見取っていただき、本校の現在や未来のことについて、熱心に親身になって、考えていただいていることが伝わってきた。生徒たちにとって、これから必要となる資質・能力は、知識の修得と探究力の鍛錬との間をらせん状に循環しながら高まっていくものと考え。次年度以降も、本校が目指す「探究する生徒の育成」のために、外部人材の活用を積極的に進め、多くのチャンスを生徒たちに与えながら、魅力ある学校づくりを推進し、生徒募集に繋げる。特に、普通科とみらい創造科グローバル探究コースについては、次年度の入学定員確保に向け、戦略的、組織的な活動を推進していく。定員割れの現状を、少子化の影響として甘んじることなく、本校の将来を見据え、特に普通科4クラスの実現に向けては、こだわりを持って取り組みたい。

また、職員の働き方改革については、最優先課題に位置づけ、個々の職員の勤務実態を明確に把握し、学校としての最善の取組を提案、実施していく。生徒の学びを止めることなく安定した学校運営を遂行するためには、職員のワーク・ライフ・バランスの実現が急務である。生徒・保護者にも正確な情報を発信し、十分な理解を求めながら、戦略的に進めていく。